



2024

学校だより 本荘 Smile

令和6年度 第50号
令和7年3月26日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

地域の力をいかして学校教育。このすばらしい本荘校区だからすばらしい学校づくりができるのです。

【1月19日 校区もちつき】



話は1月までさかのぼります(笑)。卒業した6年生のはるさんとるくさんがお餅をついていますね。それを見守る地域の方々。うれしい限りの風景です。久しぶりに行われた校区イベント「本荘校区もちつき」の様子です。

このイベントは、コロナ禍の前まで行われていた「どんどや」にかわるイベントとして5年ぶりに行われた地域イベントです。この日は天気もよく、多くの子どもたちが参加をしてくれました。やはり子どもが主役のイベントはとても気持ちのよいものです。(その様子は次ページに) 校長先生も教頭先生も当日参加をしてくれた先生方も一生懸命に杵を振り上げ、最近はあまりしなくなった「もちつき」を楽しんでいました。またこの日は、校区の婦人会の皆様がおいしいおいしいきなこもちなど

に仕上げてくださいだったので、こどもたちは楽しいやらおいしいやらで万々歳でした。ちなみに希望をしたこどもたちは、お餅を丸める作業にも加えていただきましたので、楽しさは3倍です。

伝統文化の大切さから、このような行事にはなるべく多く参加してもらいたいと切に願う校長ですが、こういう地域の教育力をいかした学校づくりが大切なのだと改めて感じたものでした。

それに加えて、こどもたちに感謝の気持ちを育てるためにもこのような行事が必要なのです。例えば臼です。この石臼の重さわかりますか？おおよそ100キロ近くあるのです。この臼を地域の方々には中原公園からリヤカーに乗せて運んでこられました。もう1台の臼は、みのり保育園からPTA会長さんがたった二人で軽トラに載せて持ってきてくださいました。婦人会ではきなこ餅だけでなく、豚汁をつくってくださり、道具もすべて準備万端だったのです。

こういうイベントでは、参加することで楽しい部分だけ体験し、なぜ、準備ができているか等、考えてもみないことも多いので、その点は注意したかったところです。準備をしてくれる人たちが朝早くからいろいろとしてくれていたのでできたということをごどもたちは忘れてはなりません。そこに教育の本質があるものと考えます。参加された保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。校長として心よりお礼申し上げます。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「もちつきの様子」



当日集まったこどもたち



大勢の人たちが集まってくださいました



左
久しぶりのもちつき
に喜ぶ校長先生と教
頭先生

右
力強くつく福嶋先生
とスピード感あふれ
る田畑先生